



私の歩み方

第8回

各分野で活躍する田原市出身の方を不定期でご紹介しています。

鈴木 信二さん（神戸町出身）・東京都在住 俳優

●神戸小学校・東部中学校を卒業。豊橋工業高校卒業後、現在の事務所がもつ養成所のオーディションを受け、合格。3年間稽古や先輩の手伝いをしながら芝居を学び、映画「あずみ」「THE LAST SAMURAI」で本格的に俳優としてデビュー。小さいころから習っていた空手を生かし、時代劇やアクションものを中心に俳優として活躍中。

【主な出演作品】

- ・2003年「THE LAST SAMURAI」側近役
- ・2003年「あずみ」あわ役
- ・2007年「バベル」タケシ役
- ・2009年「超笑撃の功夫混乱少年 真一文字拳」真一文字拳役
- ・2010年「SAMURAI SONG」朝陽役 など

出会いとタイミング

―俳優になったきっかけは？

【鈴木さん】 小さいころから空手を習い、映画も好きで、それを生かせるのは俳優しかないといっしか考えるようになっていました。高校時代に俳優を目指そうと決めたとき、米国のケンタッキー州から中学校の英語教師として来日していたケリーさんに、事務所の先輩を紹介してもらったのがきっかけです。それで今の事務所を知り、養成所を受験し、合格したのが始まりです。

―俳優としての転機は？

【鈴木さん】 稽古に明け暮れていた当時、「あずみ」のオーディションの話がありました。オーディションを受け、監督に気に入られて合格、あわ役として出演しました。作品と監督との出会いはまさにタイミング。「あずみ」や「ラストサムライ」のオーディションを受けた時、緊張もせず、「これはこの作品に出る」と直感がありました。上京する時「3年で芽が出なかったら帰ってこい」と父親に言われていたので、この2作品に出会っていなかったら、田原に帰っていたと思います。

―最近の活動は？

【鈴木さん】 震災直後、石巻市いしのまきの牡鹿半島おしかにボランティアに行きました。ボランティアに行ったのに、逆に被災地の方々にたくさん親切にしてもらいました。ご飯を食べさせてもらったり、寝かせてもらったり。ボランティアに行つて気づいたことは、与えるだけでなく、一緒にがんばることが必要だということです。今、被災地の方々に届けるものは、物ではなく、原動力です。自分たちに今、何ができるか。仲間と考え、出した答えが、地元



▲平成26年1月6日、事務所の稽古場で養成所の生徒さんを背にインタビュー。

の祭り「ございん祭」と盆踊りの復活と融合でした。自分たちで企画し、地元の観光協会へ提案したところ、観光協会の皆さんは快く協力してくれ、今は、8月の祭り「牡鹿さ ございん 牡鹿半島復興祭」に向け、準備をしています。田原市の皆さんにもぜひ参加してほしいと思っています。田原と牡鹿の文化がつながり、産業や流通につながればいいと考えています。

―田原市のイメージは？

【鈴木さん】 小さいころは、いつも外で遊んでいました。小学校の裏山で、秘密基地をみんなで作って、先生に見つからないように落とし穴を作って基地を守っていました。実際、先生は一度も来ませんでしたが（笑）。今は、盆や正月に帰ると、進化していく田原を感じます。新しい駅もでき、だいたい駅前も変わりましたね。進化してもっと住みやすくなるのは、いいことです。でも、物じやなく、田原市民としての誇りはなくさないでほしいと思います。

―田原市の子ども達へメッセージを

【鈴木さん】 好きなことを見つけてほしい。やってみたいと思った習い事をやってみて、途中でやめるのは構わない。いろんなことに挑戦して好きなことを見つけてほしい。そして、好きなことを続ける強さ、好きなことを続ける誇りを持ち、好きなことを続ける自分を愛してほしい。